

Green Week

2010年秋より環境保全・社会貢献活動強化期間「Green Week」を設けています。
社会貢献活動への参加を通じて、環境保全についての理解を深めながら、地域社会や参加者同士のコミュニケーションを図ることを目的としています。より多くの役社員が自主的にCSR活動に参加出来る機会でもあり、当社役社員の一体感

の醸成にも繋がっています。
2012年10月20日(土)～2012年10月27日(土)に開催された「Green Week 2012」では環境保全活動や、ペットボトルキャップなどの収集活動を行い、ご家族も含め、延べ7,265名の参加がありました。

Green Week ① 荒川クリーンエイド

荒川流域でのゴミ拾いを通じて、社員の環境保全意識を高め、生物多様性の保護に貢献します。ゴミを分別し、数えながら拾うことでゴミのない社会を目指し、併せて外来種の除草と自然環境教室も実施しました。同イベントは毎年継続して行っており、2012年度は役社員とその家族、計273名が参加しました。

VOICE



北九州支店
支店長
瀧岡 錠仁

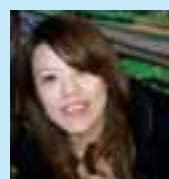
出来る範囲で活動の継続を

今まで東京や埼玉での勤務が多かった私にとって、荒川はとても身近な存在です。最近まで、毎日東武伊勢崎線の列車内から荒川の様々な風景を見ながら通勤していましたが、荒川は幾度となく私の心をなごませてくれました。
そんなきれいなイメージの荒川でしたが、今回の「荒川クリーンエイド」に参加し、水辺に近づくと、ペットボトルや飲料缶、タバコなど、たくさんのゴミが積み重なっていたのはとても大きなショックを受けました。今回の清掃活動ではあまり長い時間をかけて活動し

たわけではありませんでしたが、みんなで力を合わせて清掃を行った結果、思いの外、きれいになり、正直うれしかったです。ボランティア活動に関心はあるが機会がない、どうやったら良いのかわからない等々の理由で、意外と多くの方がボランティア活動への参加経験がないのではないかと思います。会社でこのような機会をつくってもらえることは大変ありがたいと思いますので、気軽に出来る範囲で無理のない程度に活動すれば良いと思います。これからぜひ、このような活動を継続していきましょう!

自然を大切にするのは当たり前という感覚を伝えていきたい

田舎出身の私は、上京してきた当初、東京は本当に自然の少ない殺伐とした土地だと感じたのを覚えています。春には桜が咲き、夏には木々の緑を感じ、秋には紅葉を楽しみながら、冬には落ち葉を踏み、また春を待つ...これまではそのような自然に囲まれているのが当たり前でしたが、環境が変わって初めて自然の大切さを実感したように思います。
今回、荒川クリーンエイドに参加したのは、現在居住している東京の実際の環境の在り方を見たかったというのが一番の理由です。故郷を離れてから、人生の半分以上を過ごしているこの土地に自分ももっとできることがあるのではないかと考えていました。そして実際に荒川を見た時、東京にもこのような自然があるのだと驚きました。



大手町支店
投資アドバイザー課
梶原 百々子



特別寄稿



特定非営利活動法人
「荒川クリーンエイド・フォーラム」代表理事
佐藤 正兵 さん

荒川クリーンエイドにご参加いただいて

荒川は東京都の東部を流れる一級河川で、その下流域には広大な自然地が広がっていますが、水際や干潟に流れ着くゴミによって大切な自然が損なわれています。これを何とかしたいという人たちが1994年からゴミ拾いを始め、97年に市民や企業、学校、自治体、行政等の関係者が集まり、特定非営利活動法人「荒川クリーンエイド・フォーラム」を結成し、99年にNPO法人を取得して活動を続けています。
水際のゴミを拾うことで、ヨシ原が元気を取り戻し、カニや鳥、その他の生き物も元気になって荒川全体の自然が回復し、流れる水もきれいになることで、きれいな水を好む魚もたくさん戻ってきました。
SMBC日興証券には、日興コーディアル証券の頃の2006年から毎年この活動にご参加いただいています。ボランティア活動にお

客様として参加するのではなく、念入りに下見や準備を重ね、当日も多くの社員スタッフの皆さまのご尽力のおかげで気持ちの良い活動となっています。
企業が活動に参加することの意義として、短時間のゴミ拾いでも、大勢の社員の皆さまのご参加によって大きな成果となること が挙げられると思います。荒川クリーンエイドも市民が細々とやってきた活動ですが、大企業の皆さまがこのように大勢で真剣に取り組んでいただくことによって、一層の広がりを持っていく ことと感じております。今後も大勢の役社員の皆さまの参加を継続 いただき、荒川クリーンエイドに参加されたことをきっかけに、一人ひとりが日常の生活の中でもゴミを出さないことを実践 し、その輪が広がることで社会が変わっていくことを期待して おります。

Green Week ② 藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟は2002年にラムサール条約登録地に指定された干潟で、日本有数の渡り鳥の飛来地でもあります。藤前干潟クリーン大作戦では、清掃活動を行うことで干潟を恒久的に保全し、持続的に心豊かな生活を送っていける社会の実現を目指しており、2012年度は役社員とその家族、計143名が参加しました。



VOICE



名古屋支店
支店長
佐藤 博文

小さな活動から大きなことを学びました

私たちは普段、経済の先端で金融・企業人の一人としてお金の橋渡し役を担い、社会や人や企業に役立ちたいと活動をしています。このようなボランティア活動に参加する機会は多くはありませんが、短時間とはいえ、こうした地域の環境保全活動を実際にやってみると非常に新鮮で、正直ひと味違った充実感のような気持ちが湧きました。小さな活動でも、思いやりの心について、これほど大きく考えさせられるとは思いませんでした。おかげさまで、大変楽しく有意義な機会だったと思います。今回の清掃活動にはベテランから若手に至るま

で多くの社員が参加しましたが、きっと同じようなことに気付かされ、得るものは小さく感じたと思います。ひょっとすると、私たちより若手の方が、こうした社会貢献意識は勝るとも劣らない水準にあるかも知れません。お客様への思いやり、細やかな気配り、誠実で丁寧な姿勢・対応、私たち全員がもっとも大切にすべき「基本」を深く再認識する良い機会となったようです。
今後も、こうした地域の清掃活動には継続的に参加していきたいと 思います。



四日市支店
投資アドバイザー課長
足立 博

一緒に参加した息子が、とても頼もしく感じられました

藤前干潟クリーン大作戦に、息子2人と参加しました。当日は少し早く着いたので、集合場所の活動センターで掲示板を見ながら干潟の魅力と保全に至った経緯やその重要性について息子と話し、今回の活動の意味を改めて知ることが出来ました。
ゴミ拾いに行くに聞いて、しぶしぶ参加した長男も、まるで宝探しでもしているかのようにペットボトル、お菓子の袋、流木や釣り具などを次々に拾っては嬉しそうにしていたのが印象的でした。集まったゴミの山、そしてきれいになった干潟を見て「疲れたけど、頑張ってた良

かった」と誇らしげに言っている息子の顔を見て、とても頼もしく感じました。
最近は学校や地域でも環境保護について、このような体験を通じて学ぶ機会は少なくなっています。貴重な体験が出来る機会をいただき、ありがとうございました。
次回、開催される時は一人でも多くの人が参加し、自然環境保護に対する意識を高めていければ良いと思いました。